

Case 24-2007: A 20-Year-Old Pregnant Woman with Altered Mental Status
(New England Journal of Medicine 2007;357:589-600)

#1 神経症状

#1-1 認知機能障害

入院 4 日前に時間に対する見当識障害を認めている。その後神経症状は一度軽快したが、入院時、文を書くことができない、3 つの言葉の記憶で一つも想起できない、と作文及び記憶に障害がみられる。入院 7 日目以降は指示に対する反応低下もみられる。

#1-2 筋力低下、右足の痙性麻痺

入院 4 日前から左側に筋力低下が生じている。入院時には右足の筋緊張亢進、反射亢進、クローヌスを認めている。

#1-3 運動失調

入院前日より歩行困難となって椅子に倒れこんでいた。入院時、歩行は wide-based で安定しない。また、急速拮抗運動が稚拙である。

#1-4 舞踏様運動

頭部及び頸部の舞踏様運動がみられる。

#1-5 右半側無視

入院 7 日目以降に右半側無視が出現している。

#2 悪心・嘔吐

入院 6 週前より悪心、嘔吐が 2 週間続いていた。入院 4 日前にも数回の嘔吐が見られた。

#3 MRI での高信号域

FLAIR で左海馬、海馬傍回、左内包の後縁に高信号域を認め、造影で増強効果を認めない。入院 13 日目に FLAIR で橋及び中小脳脚に新たな高信号域、拡散強調画像で左内包後縁に高信号域を認める。

#4 脳波異常

入院 2 日目の脳波で、びまん性 θ 波及び前頭部間欠性律動性 δ 活動がみられる。入院 12 日目には背景活動の減衰、 δ 波の減少がみられる。

#5 髄液検査異常

髄液細胞増加、蛋白軽度増加、糖正常、IgG 増加がみられる。

#6 妊娠

入院時妊娠第 26 週。胎児の形態、発育は正常である。

#7 尿蛋白、尿糖

入院 4 日前に尿蛋白 30mg/dl、尿糖 100mg/dl と軽度の増加を認めている。

#8 *Chlamydia trachomatis* 感染

入院 8 週間前に *Chlamydia trachomatis* 感染が陽性であり、azithromycin による治療が行われた。